

| | | | | | |
|----------|--|----|-----------|----|-----|
| 氏名 | 岡 桃子 | 部署 | 社会福祉子ども学科 | 職名 | 准教授 |
| 研究分野 | 子ども家庭福祉 | | | | |
| 学位 | 修士（人間関係学） | | | | |
| 学歴 | 2002年3月立教大学コミュニティ福祉学部コミュニティ福祉学科卒業、2006年3月立教大学大学院修士課程コミュニティ福祉学研究科人間関係学専攻臨床心理学コース終了 | | | | |
| 経歴 | 2006年度～立教大学コミュニティ福祉学部実習インストラクター、2008年度～立教大学コミュニティ福祉学部助手、2011年度～八王子市子ども家庭支援センター子ども家庭支援ワーカー及び専門相談員（社会福祉士）、2016年度～立教大学コミュニティ福祉学部助教、2020年度～埼玉県立大学准教授 | | | | |
| 所属学会（役職） | 埼玉県立大学保健医療福祉科学（SPU）学会、日本コミュニティ心理学会、日本子ども虐待防止学会、日本子ども家庭福祉学会、立教大学コミュニティ福祉学部学内学会 | | | | |

【2022年度実績】

| | | | | | | |
|--------------|--|-------|---------------------------|---|------------------------------|----------|
| 1. 研究業績 | | | | | | |
| (1) 著作 | | | | | | |
| | 著作の名称 | 単・共 | ISBN | 発行所、全ページ数 | 著者、編者名 | 発行等年月 |
| 1 | 該当なし | | | | | |
| (2) 論文 | | | | | | |
| | 論文の名称 | 単・共 | 査読 | IF対象誌 | 雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ | 著者、編者名 |
| 1 | 該当なし | | | | | |
| (3) 学会発表 | | | | | | |
| | 学会発表の演題 | 単・共 | 学会名、開催都市 | | 発表者（発表者は○印） | 発表等年月 |
| 1 | 児童家庭支援センターの支援モデル化に関する研究 | 共同 | 日本子ども家庭福祉学会第23回学術集会 | | ○大澤朋子、 <u>岡桃子</u> | 2022年6月 |
| 2 | シンポジウム【COVID-19感染拡大の長期化が社会的養護経験者に与える影響と必要な支援について考える】「新型コロナ covid-19の与えた影響 IFCA第二弾調査よりケアリーバーのメンタルヘルスに与えている影響」 | 共同 | 日本子ども虐待防止学会第28回学術集会ふくおか大会 | | ○井出智博、 <u>岡桃子</u> 、○佐藤葵、○永野咲 | 2022年12月 |
| (4) その他 | | | | | | |
| | 名称 | 単・共 | 発表場所等 | | 発表者（発表者は○印） | 発表等年月 |
| 1 | 該当なし | | | | | |
| 2. 競争的資金等の研究 | | | | | | |
| | 競争的資金等の名称 | 研究名 | | 研究代表者・研究分担者の別 | 研究期間 | |
| 1 | 該当なし | | | | | |
| 3. 教育業績 | | | | | | |
| (1) 講義 | | | | | | |
| | 講義の名称 | 科目責任者 | コマ数 | 概要（教育内容・方法等において工夫した点） | | |
| 1 | 子ども家庭福祉論 | ○ | 15 | 子どもや家庭が置かれている環境を知るとともに、子ども家庭福祉の基本的な枠組みへの理解を深め、福祉施策や活動の実態と課題について展開した。オンライン講義において、課題・アンケートやリフレクション（感想）を積極的に共有し、相互交流による学びの深まり・参加型を意識した（以下の科目も同様） | | |
| 2 | 社会的養護 | ○ | 15 | 社会的養護の原理、実施体系、ソーシャルワークについて学ぶことにより、「子どもの最善の利益」を追求する社会的養護についての学びを展開した。 | | |
| 3 | 社会的養護内容 | ○ | 15 | 子どもの権利に重点をおいた社会的養護内容について、各施設での事例を取り上げながら展開した。 | | |
| 4 | 子ども若者支援論（大学院） | | 15 | 子どもの貧困対策、若者の社会的排除対策、その他、子育て家庭・一人親世帯に対する支援等について、6名の教員によるオムニバス形式で展開した。 | | |

| (2) 演習 | | | | |
|------------------------|-----------------------------|--|--|---|
| | 演習の名称 | 科目責任者 | コマ数 | 概要 (教育内容・方法等において工夫した点) |
| 1 | ソーシャルワーク実習指導Ⅰ | | 15 | 実習目的の明確化、実習先施設の理解を含めた事前指導を行った。 |
| 2 | ソーシャルワーク演習Ⅱ | | 15 | 学生を少人数グループに分け、教員4名が専門分野の事例を活用しながらソーシャルワーク技法について学びを展開した。 |
| 3 | ソーシャルワーク演習Ⅳ | | 15 | 教員4名が十数名の学生たちを担当し、地域の調査及び支援プログラムづくりの実践をサポートした。 |
| 4 | 社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ | ○ | 15×2 | 学生の関心や問題意識に応じて、多様な演習形式 (関連テーマについてのディスカッション、動画視聴、現場見学) による学習を行った。ゼミメンバーが互いに発言しやすい居場所作りを重視した。 |
| 5 | 社会福祉専門演習Ⅲ・Ⅳ | ○ | 15×2 | 卒業研究に向けての学習課題を明らかにし、個別の取り組みを進めていくことに加えて、就職活動や国家試験対策など、最終学年の取り組みをゼミ形式で共有した。 |
| 6 | スタートアップセミナー | | 4 | 新入生のスタートアップセミナー演習回を担当し、グループワークの進行をサポートした。 |
| (3) 実習 | | | | |
| | 実習の名称 | 科目責任者 | 学外実習：期間 学内実習：コマ数 | 概要 (教育内容・方法等において工夫した点) |
| 1 | ヒューマンケア体験実習 | | 15 | 全体のプログラムに沿って、学生のグループ活動を促進させた。 |
| 2 | ソーシャルワーク実習Ⅰ | | 15 | 学生9名を担当し、帰校日・巡回を通してスーパーバイズを実施した。 |
| 3 | 共生社会実習Ⅱ | | 2023.1 | 学生1名を担当し、里親支援事業を行っている児童相談所・児童用と施設を開拓し、プログラムを調整した。 |
| (4) 論文指導 | | | | |
| | 対象 | 期間 | 主指導・副指導の別及び指導人数 | |
| 1 | 卒業論文 | 2022.4-2023.3 | 主指導 5名 | 副指導 2名 |
| (5) その他 | | | | |
| | 名称 | 期間 | 概要 (教育内容・方法等において工夫した点) | |
| 1 | 国家試験における学習相談 | 2021.4-現在 | 国家試験受験者に対する助言と講義を実施 | |
| 2 | 駿河台大学心理学部および心理学研究科大学院 非常勤講師 | 2020.4-現在 | 「福祉心理学」「福祉心理学特論」を担当 | |
| 3 | 日本福祉大学福祉経営学部 非常勤 | 2020.4-現在 | 「相談援助演習Ⅰ」を担当 | |
| 4. 社会貢献活動 | | | | |
| (1) 講演会、研修会、公開講座等の講師 | | | | |
| | 講演会、研修会、公開講座等の名称 | 主催 | 講演、研修、公開講座等のテーマ | 開催年月 |
| 1 | 実習指導者講習会 | 埼玉県立大学社会福祉子ども学科 | 社会福祉士実習を行う実習施設・機関の実習指導者の要件としての講習会の中で、「実習スーパービジョン論」担当 | 2022.6-7 |
| 2 | 2022年度卒業生等支援講座・専門職スキルアップ講座 | 埼玉県立大学社会福祉子ども学科新カリキュラムソーシャルワーク実習科目責任者会 | 新カリキュラム社会福祉士実習説明会～円滑な実習の受け入れに向けて～の中で、プログラム「実習の評価等について～評価表・様式の変更点～」担当 | 2022.9 |
| 3 | 児童虐待問題を考える講座 | 吉川市子ども福祉部子育て支援課 | 子どもと家庭を取り巻く課題とその解決に向けて地域ができること | 2023.3 |
| (2) 国、自治体、学術団体等における委員等 | | | | |
| | 国、自治体、学術団体等の名称 | 委員等の名称 | | 任期 |
| 1 | ホームスタートかわごえ | 運営委員 | | 2021年度～現在 |
| 2 | 立教大学コミュニティ福祉学部学内学会 | 運営委員 | | 2020年度～現在 |
| (3) ジャーナリズムでの発言 | | | | |
| | メディア等の名称 | 内容 | | 年月 |
| 1 | 該当なし | | | |

| (4) その他 | | | | |
|---------------------------|-----------------|-------------------------|--|---------------|
| | 項目 | 相手方等 | 内容 | 期間 |
| 1 | 地域貢献活動 | NPO法人湘南遊映坐 | 理事、事務局長、復興支援事業担当（熊本県南阿蘇村応急仮設住宅、立野学童保育所等） | 2013.10-現在 |
| 2 | 地域貢献活動 | NPO法人IFCA | SA担当（社会的養護経験者サポーターアダルト）／プロジェクトCチーム（新型コロナ感染拡大が、社会的養護の当事者たちの生活においてどのような影響が出たかWEB調査実施） | 2019.2-現在 |
| 3 | 地域貢献活動 | NPO法人IFCA | 上記、サポーターアダルトとして携わっている、NPO法人IFCAのアメリカ支部との連携共同渡米プロジェクトに参加。社会的養護経験の当事者ユースをサポートするため同行。ロサンゼルス郡の視察研修およびカリフォルニア州の当事者交流プログラムに参加。 | 2022.9 |
| 5. 学内運営 | | | | |
| | 項目 | 内容 | | 期間 |
| 1 | 学生支援 | 学年担当（1年生） | | 2021.4-現在 |
| 2 | 学科等における委員会等 | 国家試験支援担当 | | 2021.4-現在 |
| 3 | 学科等における委員会等 | 日本ソーシャルワーク教育学校連盟担当 | | 2022.4-現在 |
| 4 | 大学広報活動 | オープンキャンパス 模擬授業担当 1日（4回） | | 2022.8 |
| 5 | 全学的委員会及びセンター業務等 | 教員親睦会幹事（会計担当、お見送り会幹事） | | 2022.4-2023.3 |
| 6 | 全学的委員会及びセンター業務等 | SPU学会編集委員 | | 2021.4-現在 |
| 6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの） | | | | |
| | 受賞名 | 主催 | 受賞年月 | |
| 1 | 該当なし | | | |
| 7. 特許の取得 | | | | |
| | 特許名 | 特許番号 | 登録年月 | |
| 1 | 該当なし | | | |
| 8. 特記事項 | | | | |
| 1 | 国家資格「公認心理師」取得 | | | |